

# Urban Design Lab Magazine

## クリス新助教就任！ —都市デザインの展望&就任のご挨拶—

Mr.Christian Dimmer gained the post as assistant-professor.



text\_ishii

2012年度の幕開けと共に、クリス元研究員が都市デザイン研究室の助教に就任しました。今号では、就任の挨拶として、クリス助教に都市計画の在り方や、都市デザインの展望に関して語って頂きます。

Urban design requires an integrative, inter-disciplinary, collaborative thinking: urban designers develop and realize future visions through continuous negotiation processes and moderation between transportation planners, civil engineers, architects, landscape planners, regional planners, social scientists, or economic planners, local politicians, and, most importantly, the citizens and the general public. It is therefore vital for urban designers to understand the mindsets of the different stakeholders and experts as well as the political, economic and social fields in which projects or plans materialise. In order to develop responsive, inclusive and locally rooted projects, urban designers have to understand the needs of the affected citizens as well as the historical, cultural, natural, and geographical

peculiarities of the places they engage in. Furthermore, as urban problems have increasingly global repercussions, problem solving must likewise take on an international perspective, informed by mutual exchange and learning.

As assistant-professor, I would like to contribute to further strengthening the integrated, interdisciplinary approach of the Urban Design Laboratory, and increase its international exposure.



▲クリス助教と新宿副都心

### 社会科見学部

## 世界を魅了した日本の KATAGAMI を知る

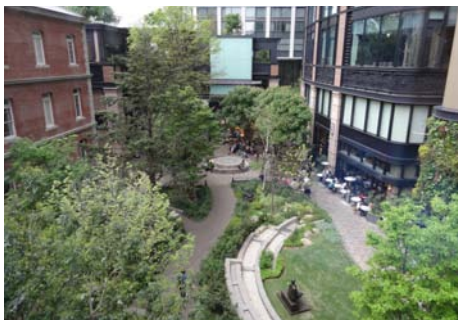
The Paper Stencils and Japonisme charmed the world.



### —三菱一号館美術館を見学— —Visit to the Mitsubishi Ichigokan Museum.—

text\_omori

4月30日(月)に、丸の内の三菱一号館美術館で開催されている「KATAGAMI Style—世界が愛した日本のデザイナー—」をマガジン編集部で見学しました。ジャポニズムからアールヌーボーまで大きな影響を与えた日本の型紙の魅力を堪能しました。型紙は着物の生地に文様を染色する際に用いる版画の板のようなもので、生地を裁断する際に使う一般的な型紙とは別物です。その繊細な美しさに日本ならではの職人技を感じました。また復元された三菱一号館は、ジョサイア・コンドルの建築を今に伝える優美な外観で、丸の内が積み重ねた歴史に想いをはせる編集部一同でした。



▲三菱一号館美術館からみた中庭



▲館内も一部、建設当時の内装が再現されている



## OB・OGめぐり第10弾!

The news from OB of UD Lab Vol.10!

都市デザイン研究室のOB・OGの方々に、卒業後の仕事や活動に関して寄稿して頂く企画です。節目の10回目は長崎県庁で活躍されている國廣正彦さん(平成8年修了)です。

私は、長崎県庁の世界遺産登録推進室において、いずれも暫定リストに掲載されている「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」と「九州・山口の近代化産業遺産群」の世界遺産本登録に向けた取り組みを行っています。「長崎の教会群」では、県内5市2町と世界遺産登録を契機としたまちづくり計画を策定しており、構成資産の保護・保全だけでなく、持続可能な地域づくりの視点も踏まえた周辺環境の保全や増加する観光客の受入をはじめとした資産の活用について、地域住民や信者の方々、専門家の方などと協働しながら計画づくりを進めています。都市デザイン研究室の皆様の応援もよろしくお願いいたします。また、私は東京の

組織設計事務所から転職しましたが、地域が抱える課題について、地域に根ざし組織横断で総合的にまちづくりに取り組める点が、地方自治体のやりがいであると感じています。長崎に関心のある方はご一報を！(m\_kunihiro@pref.nagasaki.lg.jp)



▲田平天主堂(長崎県平戸市)



▲頭ヶ島天主堂(長崎県新上五島町)

## プロジェクト報告

## 新たな仲間と共に、PJが続々と始動!

Projects have Started with New Members.

新年度を迎え早一ヶ月、現地調査へ行った清水PJと佐原PJの新一年生によるフレッシュなPJ報告です!

清水 SHIMIZU-project  
プロジェクト

text\_kashiwabara

4月27日(金)に今年度初の清水PJの現地調査を行いました。前日の大雨の心配をよそに、当日は快晴!暑いほどの日差しの中、商店街でお借りした電動自転車で清水港周辺を周りました。プロジェクト対象地である日の出埠頭をはじめ、三保の松原や次郎長生家の見学、市役所での打ち合わせにも参加しました。今回の訪問は日帰りではありましたが、盛り沢山の一日となり、清水のまちに対する理解がぐっと深まりました。今年度で2年目となる清水PJでは、これまでの調査をもとに、さらに具体的な提案へと進めていく予定です。



▲静謐な折戸貯木場



▲サイクリング日和



▲次郎長生家で次郎長について学ぶ

佐原 SAWARA-project  
プロジェクト

text\_koshimura

5月9日(水)、窪田先生、M2安東・松本、M1萩原・福土・柏原・越村の計7名で佐原の現地調査を行いました。年度初めの現地調査ということで伝建地区全体を概観するとともに、香取市の都市整備課の方々や地元の方からも貴重なお話を伺うことができました。地区内には、まだまだ震災の傷跡も見られましたが、被害を受けた建物うちのいくつかは、古色を塗らず、木そのままの色で修築されていたのが印象的で、復興への兆しを感じることができました。

昨年度は東日本大震災による被害状況に関する調査が中心でしたが、今年度は街路や商店など佐原の歴史的な変遷を辿りつつ、それと共にあったかつての暮らしを明らかにしていきたいと考えています。また、空き家となった建物の利活用に関する提案も検討していきます。



▲洋食店として再生が進む被災物件



▲忠敬橋からも屋根のブルーシートが見える

## Information

## 5月の予定

5月13~15日	靱PJ現地調査
5月14日	研究室会議 13:00~15:00
5月26~28日	大槌PJ現地調査

## \* 編集後記

石井 かおる

皆さん、ゴールデンウィークはいかが過ごしましたか?太陽サンサンの日、私は祖母の家でBBQをしました。ピカピカ小学一年生のいとこの為、煙に巻かれ直射日光を浴びながらも、かおるお姉ちゃんは焼き続けました!お肉もお野菜も私もこんがり焼けたGWの楽しいひと時でした。満足日和!